

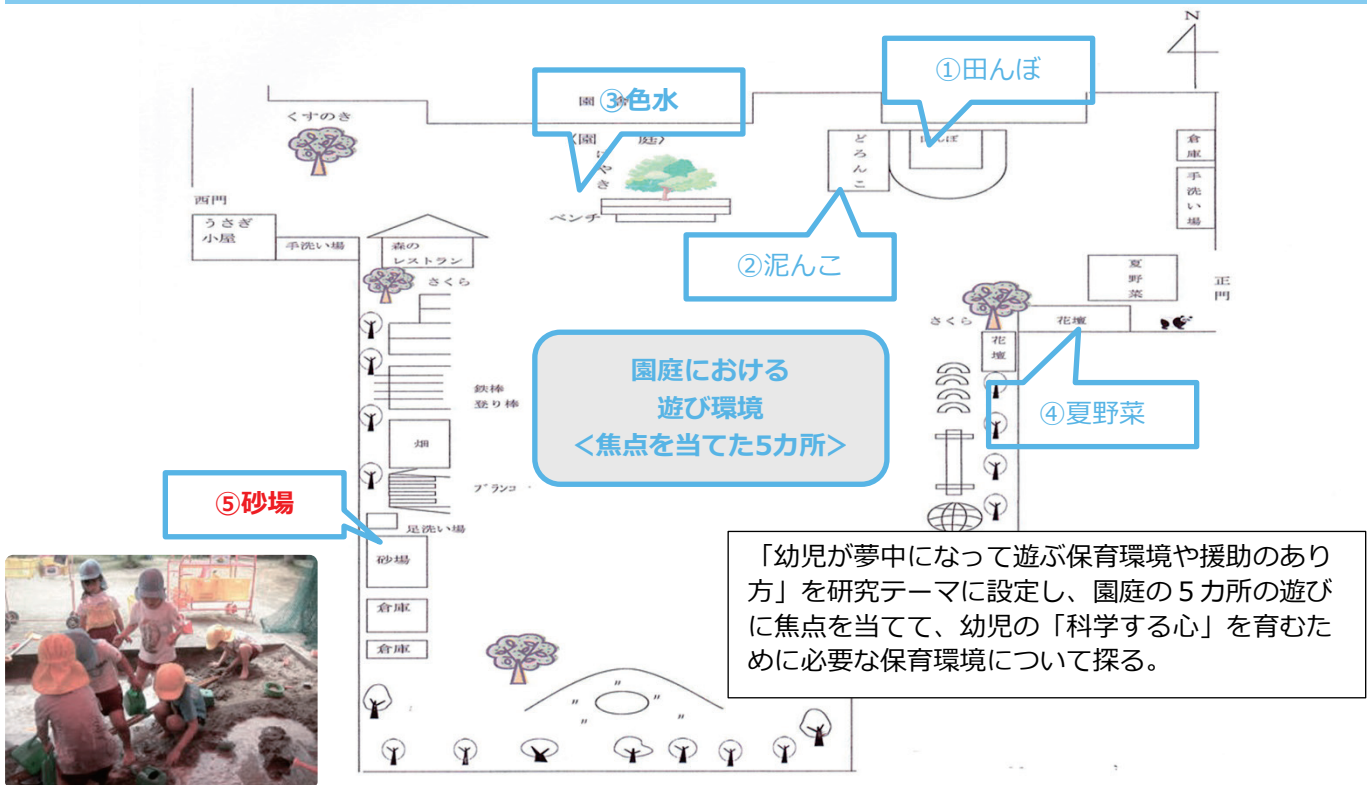
# 1 焦点を当てる

## ② 環境に焦点を当てる

子ども自ら心を動かし環境に関わるきっかけを大切に、園内でどのような「科学する心」が育まれているのか把握することは、保育の向上に有効です。

以下の事例は、保育環境として、「園庭における遊び環境」に焦点を当てた実践です。更に5カ所に絞った中の1つ、砂場遊びの場面です。このように、保育者が**焦点を当てて**細やかに子どもの言動を把握することにより、「砂場で水を流す遊びを楽しんでいる」という見方からさらに踏み込んで、「**水の力を感じる**」「**水の流れ方の違いに気付く**」「**水の力や流れ方など気付いたことを遊びに活かし楽しむ**」という体験を読み取り、「科学する心」が育まれる子どもを理解することに結び付いています。

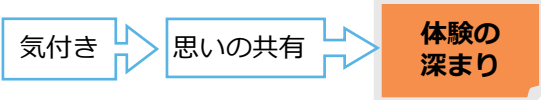
### 「バケツの水は速い？」（園庭の保育環境：砂場） 5歳児 徳島市立川内北幼稚園



「幼児が夢中になって遊ぶ保育環境や援助のあり方」を研究テーマに設定し、園庭の5カ所の遊びに焦点を当てて、幼児の「科学する心」を育むために必要な保育環境について探る。

あれ？バケツの水の方が速くない？

流す水の量によって流れの速さが変わるのかな？



4月中旬  
5歳児A児ら4名は、4歳児の頃に5歳児がしていたことを思い出して、砂場に竹の樋を持ってきて水路を作る。ジョウロやバケツに水を汲み、作った水路に流していく。竹の樋を流れた水は、その勢いのまま砂の上へ流れ出る。「水路を掘っていないのに、水の通り道ができた！」「水の力ってすごいなあ！」何度も何度も水を汲んでは流すことを繰り返していたが、ジョウロで水を流していたB児と、バケツで水を流すA児では、**水の流れ方が違うことに気付く。**

そこで竹の樋はジョウロで、バケツはそのまま流してみることにする。バケツの水の勢いでどんどん砂が流れていき、新しい水路が広がっていく。「きっとバケツの水の方が、力が強いんだ！」「バケツの水を流すだけで、水路を広げよう！」それぞれに**気付いたことを駆使しながら遊びは進んでいく**。「大バケツいくぞ！」とA児が一番大きなバケツに満杯に水を溜めてから流すと、すごい勢いで砂を押し流していく水に大歓声が上が

(関連事例③色水はP.29)